

一緒に考えてみませんか？障害のこと、差別のこと。
様々な分野で活動しているパネリストとともに、「誰もが暮らしやすい社会」を考えよう！

手話通訳 要約筆記 点字資料

※点字資料をご希望の方は事前にお申込みください。

第2回 誰もが暮らしやすいまちづくりフォーラム2014

Make the Right Real 権利を実現する！

9.7 日 13:00-16:35
開場12:30～ 予約不要・参加無料



会場

エルパーク仙台 6階スタジオホール
仙台市青葉区一番町4丁目11-1 (141ビル・仙台三越定禅寺通り館6階)

差別をなくし、共生社会の実現を目指して！

パネルディスカッション テーマ 分野をこえた“生きにくさ”について語る、誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて。

●様々な分野で活動する5名のパネリストが参加！※2回に分け、ディスカッションを行います。※途中休憩時間を設けます。



「反貧困」を考える。
新里 宏二
弁護士



「女性」を考える。
八幡 悦子
ハーティー仙台 代表理事



「子どもの権利」を考える。
小林 純子
チャイルドラインみやぎ代表理事



「薬物依存」を考える。
飯室 勉
仙台ダルク 代表



「障害当事者」を考える。
川村 有紀
仙台スピーカーズビューロー



コーディネーター
沼崎 一郎
東北大学大学院文学研究科 教授

主催

お問い合わせ先

条例の会仙台では、活動にかんする情報やイベントをメール配信しております。ご希望の方は、お気軽にご連絡ください。

条例の会 仙台

〒982-0011 仙台市太白区長町1丁目6-1 (CILたすけつと内)

TEL.022-248-6054 ●FAX 022-738-950 ●MAIL jyoureisendai@gmail.com

http://blog.canpan.info/jyourei

条例の会 仙台

検索

★この事業は「みやぎ生協こ～ぶほっとわ～く助成金」の助成を受けて実施しています。

Designed by CROSS-ART.JP

パネリスト 分野をこえた“生きにくさ”について語る。誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて。



新里 宏二 (にいさと こうじ) / 弁護士

「反貧困」を考える。

1952年、盛岡市生まれ。1983年仙台弁護士会登録、消費者問題に積極的に取り組み、日弁連多重債務対策本部事務局長などを務めた。2010年仙台弁護士会会長、翌年度日弁連副会長。市民運動でも「反貧困みやぎネットワーク」初代共同代表を務め、被災者支援に取り組むパーソナルサポートセンターの代表理事、ブラック企業対策全国弁護士副代表、全国カジノ賭博場設置反対連絡協議会代表を務める。



八幡 悦子 (やはた えつこ) / NPO法人ハーティー仙台 代表理事

「女性」を考える。

暴力被害女性、主にDV被害者・性暴力被害者のサポート活動に取り組む。25年前に女性弁護士の呼びかけではじめた「女性のための離婚相談」をきっかけに、セクハラ裁判支援等を行い、16年前からシェルターの運営を開始。スタッフの大半がDVサバイバーであり、DVと離婚についてグループで話し合う「しんこきゅうタイム」を主体に活動する。モットーは「必要な事を必要なうちしよう」。



小林 純子 (こばやし じゅんこ) / NPO法人チャイルドラインみやぎ 代表理事

「子どもの権利」を考える。

子育て中にNPO活動に関わる。1998年、米国でNPO研修を受けたことをきっかけに、子どもの権利擁護を目的としてNPO団体を設立、その後仙台市指定管理第1号の「子育てふれあいプラザのびすく仙台」の運営や児童館の指定管理などを手掛ける。2001年に子ども電話「チャイルドラインみやぎ」を設立、現在に至る。東日本大震災後はそれまでのネットワークを生かし、被災地の子ども支援を行っている。



飯室 勉 (いむろ つとむ) / 仙台ダルク 代表

「薬物依存」を考える。

1963年、横浜市生まれ。14年間薬物を使用し続け、生きることも死ぬこともできなくなっていた時「ダルクプログラム」と出会う。1998年、仙台ダルク代表就任。以来、薬物依存者と共に歩み続けている。現在、宮城県薬物相談指導員(塩竈保健所・非常勤)、薬物防止戦略推進会議委員。宮城、山形両刑務所の民間協力者も務める。薬物予防啓発講演は年間40回を超え、それを生き甲斐と感じている。



川村 有紀 (かわむら ゆき) / 仙台スピーカーズビューロー

「障害当事者」を考える。

1984年、仙台市生まれ。趣味はパイプオルガンの演奏、料理、夫との小旅行。大学時代に統合失調症と診断され、約2年にわたる入院生活から、人生や自分の可能性を見失いかけていたが、2009年に仙台スピーカーズビューローに出会い、様々な立場の市民へ向けて、精神疾患・精神しょうがいの誤解や偏見の解消と、正しい知識の普及啓発のために自らの体験を語る講演活動を精力的に行っている。



沼崎 一郎 (ぬまさき いちろう) / 東北大学大学院文学研究科 教授

コーディネーター

ミシガン州立大学大学院修了(PhD)。東北大学文学部講師、助教授を経て、2004年より現職。専攻は文化人類学、東アジア研究、人権論、男性学。1997年より、キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク東北ブロック代表として、性暴力被害者の支援活動に取り組む。最近は、ドメスティック・バイオレンスと児童虐待の被害者支援、アドヴォカシー活動にも従事。著書に「台湾社会の形成と変容」(東北大学出版会、2014年)など。

誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる仙台連絡協議会 (愛称: 条例の会 仙台)

私たち「条例の会仙台」の目指すもの。

理由は様々ですが、心身の機能障害から生じる社会での不利(生きにくさ)を解消するために、障害、差別・虐待、生活・社会環境の中にある障壁(バリア)について一緒に考え、仙台市民の理解を基に、誰も差別しない、されないまちづくりを進めることを目的とした条例制定をめざしています。

この条例は、将来に渡りさらに多くの市民に「仙台市は人にやさしく、住みやすい」と恩恵をもたらすことでしょう。この機会に、障害が特別なものではないこと、社会の中にある障壁や差別、虐待について一緒に考えて、誰もが住みやすい仙台市となるよう一緒にめざしましょう！



「条例の会 仙台」参加団体(全24団体)

●社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会 ●社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 ●仙台市知的障害者関係団体連絡協議会 ●みやぎ生活協同組合 ●NPO法人みどり会 ●心のネットワークみやぎ ●宮城精神しょうがい者団体連絡協議会 ●仙台市視覚障害者福祉協会 ●仙台市聴覚障害者協会 ●発達支援ひろがりネット ●ドリームゲート ●社会福祉法人 つどいの家 ●社会福祉法人 なのはな会 ●企業組合労働センター事業団 ワーカーズコープ ●昭和宅建・不動産 ●NPO法人 アフタースクールぼるげ ●NPO法人 ピアサポートセンターそら ●NPO法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 ●NPO法人 妻の会 ●CIL たすけっと ●宮城県社会福祉推進協議会 ●一般社団法人 日本福祉支援協会 ●NPO法人 しょうがい福祉ネット仙台 ●生活協同組合あいコープみやぎ